

2017 年度「学生による授業評価アンケート」総括

2018 年 6 月
授業向上委員会

2017 年度は、前・後期に 2 回（中間時、期末時）、計 4 回の「学生による授業評価アンケート」（以下、アンケート）を実施した。このアンケートの目的は、各教員がアンケートの結果を踏まえ、当該科目の授業改善に取り組み、またこのことを通じて本学における授業内容の向上を図ることにある。

昨年度は、後期のみアンケートを実施したが、2017 年度は、前後期各 2 回、計 4 回のアンケートを実施することができた。以下は、2017 年度のアンケートの実施状況ならびにアンケート結果の特徴や課題の総括である。

1. 実施状況

このアンケートは専任教員全員が前期、後期の中間時と期末時（計 4 回）に担当科目の科目で実施することになっている（ただし教育実習、博物館実習、卒業研究は除く。非常勤は希望者のみ）。表 1 はその実施状況を述べたものである。

表 1 2017 年度前期 アンケート実施率

	対象科目数		実施科目数		実施率	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
全学	571	571	434	415	76.01%	72.68%

表 2 2017 年度後期 アンケート実施率

	対象科目数		実施科目数		実施率	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
全学	549	549	380	375	69.22%	68.31%

アンケート実施率とは、受講生の 1 人以上の回答があった科目の事である。前期は 70% 台であったが、後期は中間期末とも 70% を下回る結果となった。

2. 実施科目における回答率と評価点

表 3、4 は、アンケート実施科目における回答率と、評価点を示したものである。全科目の平均回答率を前後期で比較すると、後期は前期よりも低下傾向にあった（前期中間 47.41%、前期期末 44.17%、後期中間 43.63%、後期期末 42.98%）。OMR シートによるアンケートから WEB を用いたアンケートに回答方法が変更され、授業中に時間を取り学生のスマホ、タブレット、PC を用いてアンケートを実施するように案内を出していたが、回答率からは、授業中での実施が徹底されていなかったことが推測される。対象科目数の増加や方法の変更などが認知されるまでには時間がかかると思われるので、徐々に改善したい。

専任教員と非常勤教員を比較すると、専任教員の方が回答率は高く授業中に実施されていたことが明らかになった。中間と期末では、期末の回答率が低下しており、アンケートの周知方法などを改善する

必要がある。評価点については、2016年度のデータでは、後期中間76.7%、後期期末76.9%であり、今回のデータとさほど変わらなかった。

表3 2017年度前期アンケート実施科目における回答率と評価点

	実施科目数		平均回答率		評価点	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
専任教員担当科目	325	308	51.39	47.09	77.32	77.31
非常勤担当科目	109	107	35.54	35.79	75.71	76.15
実施全科目	434	415	47.41	44.17	76.91	77.01

表4 2017年度後期アンケート実施科目における回答率と評価点

	実施科目数		回答率		評価点	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
専任教員担当科目	308	304	44.97	44.51	77.27	76.86
非常勤担当科目	72	71	37.93	36.46	77.36	78.59
実施全科目	380	375	43.63	42.98	77.29	77.19

3. 学部、学科別の回答率、評価点について

学部学科別、共通教育、教職、博物館学芸員、非常勤担当科目別に回答率、評価点をまとめたものが表5、6である。

表5 2017年度前期アンケート実施科目数、実施科目における回答率と評価点

	実施科目数		平均回答率		評価点	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
人間科学						
スポーツ健康	82	78	34.32	27.29	73.98	76.83
国際交流	46	46	71.55	71.91	80.43	79.20
心理臨床・子ども	33	30	68.65	42.34	76.73	78.73
医療学部						
医療工	66	62	65.22	62.05	78.18	77.63
健康栄養	31	28	37.17	50.83	75.97	75.29
芸術学部						
アート・デザイン	15	20	26.92	37.32	81.47	75.50
トータルビューティ	18	12	40.84	42.72	82.22	83.25
共通教育科目	27	24	53.30	39.92	77.48	73.46
教職科目	4	4	36.21	23.18	79.50	81.00
博物館学芸員	3	4	50.00	54.17	68.00	73.75

表6 2017年度後期アンケート実施科目数、実施科目における回答率と評価点

	実施科目数		回答率		評価点	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
人間科学						
スポーツ健康	72	72	30.53	27.29	75.19	71.99
国際交流	49	49	61.99	65.91	84.20	84.71
心理臨床・子ども	41	39	60.31	61.58	75.15	75.38
医療学部						
医療工	59	59	45.71	45.49	75.59	77.56
健康栄養	21	23	25.48	38.13	71.76	73.04
芸術学部						
アート・デザイン	16	16	37.94	41.34	76.63	77.06
トータルビューティ	12	8	48.94	25.49	81.25	82.38
共通教育科目	32	32	46.53	42.67	79.97	77.56
教職科目	6	6	37.67	24.06	75.17	76.83
博物館学芸員	0	0				

専任教員担当科目の平均回答率を基準とすると(前期中間 51.39%、期末 47.09%、後期中間 44.97%、後期期末 44.51%)を基準にすると、通年で国際交流学科の回答率が高かった。また、前期は医療工学科、後期は心理臨床・子ども学科の回答率が高かった。

回答率が低かったのは、通年ではスポーツ健康学科、教職科目、アートデザイン学科である。後期は健康栄養学科の回答率が低かった。今回はアンケート方式が変更になり1年経過したが、全体的に見ても回答率は高いとは言えないため、周知方法を検討する必要があるものの、今後の実施率向上への各学科及び各教員の取り組みに期待したい。学生の通信状況(契約容量)によりアンケートへの回答ができないという事例もあるため、学内の無線LAN設備の充実によって回答率が向上する可能性がある。

評価点については、各学科ともおおむね平均点の前後で推移しており、各学科で満足度の高い授業が行われていると考えられる。

4. 評価項目ごとの評価点（全体）

表 7 は、項目ごとの評価点をまとめたものである。学生に関する質問（あなたの受講態度について）が項目 1～5。授業に関する質問（授業方法や内容について）が 6～13 である。（※項目 6 と 7 は、各授業のレベルや進み方のスピードを問うもので統計からは省かれている。）

表7 2017 年度 項目ごとの評価点

質問番号	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13
前期中間	4.40	4.20	3.70	2.90	2.10	4.20	4.10	4.00	4.10	4.10	4.10
前期期末	4.30	4.20	3.80	3.00	2.30	4.20	4.10	4.00	4.10	4.10	4.10
後期中間	4.30	4.20	3.80	3.20	2.30	4.20	4.10	4.10	4.10	4.10	4.10
後期期末	4.30	4.20	3.90	3.10	2.30	4.20	4.20	4.10	4.20	4.20	4.20
平均	4.33	4.20	3.80	3.05	2.25	4.20	4.13	4.05	4.13	4.13	4.13

（1）学生に関する質問（あなたの受講態度について、質問 1～5）

項目 5 は「1 回の授業に関し、どの程度予習や復習に時間をかけましたか」を問う項目である。評点の 3 が 1 時間程度、評点 2 だと 30 分程度なので、その間で予習復習を行っているという回答していることが明らかになった。一方で、項目 3（「授業後のまとめや復習を十分に行いましたか」）の評価点は 3.8 であり、学生としては、復習を行っているという意識があるものの時間数は少ないという事であろう。

2 番目に評価点が低いものは、項目 4（「この授業の授業公開サーバを利用しましたか」）である。授業公開サーバが学生に十分に活用されていないことを示しているが、授業での IT 教育が重要度を増している現在、学習支援システムとして授業公開サーバの利用を促進するためには、まず教員がその重要性を理解すると同時にその積極的活用を学生に促していく必要があるであろう。項目 5 が 2 点台で、項目 3 が 3 点台という結果は昨年度と同様であった。その他の科目については、昨年度に引き続き 4 点台と高評価であった。最も高い科目は項目 1（「出席状況を自己評価して、「よい」といえますか」）であった。これは昨年度と同様である。

（2）授業に関する質問（授業方法や内容について、質問 8～13）

授業方法や内容についての評価は昨年度に引き続き 4 点台を超えており、当大学で行われている授業は学生から一定の高い評価を受けているといえる。

（3）まとめ

学生の本学での授業方法や内容についての評価は、比較的高い評価といえる。課題としては授業時間外の予習や復習に時間をかけていないことであろう。今後授業時間外の学習習慣をいかに定着させるかが課題になると考えられる。

